

本日、ここに、故 たま駅長 の和歌山電鐵による社葬が厳肅に執り行われるに当たり、謹んで御霊前にお別れの言葉を申し上げます。

たま駅長、あなたは和歌山の知名度を上げ、観光客を増やし、そして何よりも県民の心に明るさとほのぼのとした温かみを与えてくれました。

そのあなたの突然の訃報に接し、私は言葉を失いました。

あなたが、平成十八年に小嶋和歌山電鐵代表取締役社長と出会った時、たまの駅長姿が小嶋社長の目に浮かび、そして、あなたは「私駅長やります」と目で訴えて自己申告されました。

小嶋社長のお見込みのとおり、あなたは年々、駅長の風格を身に付け、最初はぎこちなかった駅長就任時に支給された特注の駅長帽と金色の名札も、すっかり堂々と着こなされ、さすがは日本初の民間鉄道会社の猫の駅長だな、と思っておりました。

そんな、あなたの勤勉な駅長ぶりにより、駅長就任一年後には「スーパー駅長」、二年後には執行役員、四年後に常務執行役員、六年後に社長代理、そして七年後にウルトラ駅長にと異例の昇格をなしとげられるとともに、貴志川線の復活に多大な貢献をされました。

また、あなたは、お客様を無心に招き、故郷わかやまを全国に発信されました。この御功績は、まことに顕著でありましたので、平成二十年には「和歌山県勲功爵・わかやまデナイト」の称号をお贈りし、その後のさらなる集客力に敬意を表し、平成二十三年には、「和歌山県観光まねき大明神」に委嘱しました。

国内だけでなく広く海外からも、あなたの活躍を一目見ようとお客様が年々増え続けています。それだけでなく、海外のCMや映画にも出演するなど、国際的な活躍は、まさに「観光まねき大明神」の名にふさわしいものでありました。

さらに、最近では、観光面での活躍にとどまらず、人と動物たちの共生や動物たちが安心して暮らせる社会の実現のために創設された「たま駅長基金」の総裁に任命され、動物愛護にもご尽力しておられました。

このように、あなたが残された数々の御功績により、地域の移動手段としてだけでなく、地域の振興にとって大変貴重な貴志川線が存続できたことに対し、県民を代表して改めて心から感謝申し上げる次第であります。

私は今、あなたの愛くるしい笑顔を思い出し、あなたとの語らいを心から懐かしく思っているところです。あなたの存在が大きすぎて、深い悲しみに包まれている方が世界中にたくさんいます。

何事もなかったかのように、私たちの前に元気なお姿をみせてくれ、いつものあの優しい声で「ニャー」とお迎えしてくれるのではないかと、そんな思いさえしてやみません。

たま駅長、あなたの面影は、いつまでも私たちの胸の奥にとどまり続けます。本当にありがとうございます。

お名残は尽きませんが、お別れの時が参りました。

どうか安らかにお眠りください。

平成二十七年六月二十八日

和歌山県知事 仁坂 吉伸